

記事を読んで、問いに答えなさい。
解答欄が足りない場合は、裏面に記すこと。

2020年 12月23日朝刊浜松版

ブルーベリー 年内出荷成功

他産地との差別化を目指し、ブルーベリーの早期出荷に力を入れている浜松市北区都田町の丸浜柑橘（かんきつ）農業協同組合連合会は22日、例年2月下旬ごろに収穫が始まるハウス栽培の「浜松ブルーベリー」を、2006年の栽培開始以降初めて年末まで前倒しした出荷にこぎ着けた。露地栽培が中心のブルーベリーは夏場が最盛期で、通常この時期はまだ花も咲いていない。連合会によると、年内出荷は市場流通する商業栽培としては全国初とみられる。

初収穫は連合会丸浜ブルーベリー部会の安間耕司部会長（39）の加温ハウスで実施。直徑2センチほどに実った香り豊かなブルーベリーを一つずつ丁寧に摘み取り、約1キロを浜松青果に出荷した。人気のフルーツを他産地の商品がない冬場に出荷できるブルーベリーを一つずつ丁寧に摘み取り、約1キロを浜松青果に出荷した。



年内出荷に成功したブルーベリーを収穫する安間耕司さん。22日午前、浜松市北区都田町

丸浜柑橘農協連合（浜松市北区）

他産地と差別化、実験重ね努力 形に

露地栽培と合わせて長期の取り扱いが可能になる。こうしたメリットを踏まえ、連合会はハウス栽培に着目し、十数年にわたり栽培を重ねてきた。

19年度からは、農林水産省「次世代施設園芸地域展開促進事業」の一環で東京農工大、県西部農林事務所と連携し、安間部会長の加温ハウスで早期収穫の実証実験に取り組み始めた。

より早期の収穫を目的に同事業初年度、栽培テーマを基に二酸化炭素（CO₂）量や温度、湿度などの環境を整える複合環境制御機器を導入した。今年8月からは果樹栽培としては珍しく、日の長さを調整する遮光技術を新たに加え、約2カ月早く秋が来たと錯覚させることで、収穫期を大きく前倒しすることに成功した。

安間部会長は「目標のクリスマス間に合って良かった。試験段階だが、遮光技術を築ければこの時期の安定生産が可能になる」と期待。連合会は「栽培者の育成を進め、将来的にはクリスマスに合わせた販売の確立も目指す」と意気込む。

（細江支局・吉沢光隆）



①露地栽培が中心のブルーベリーをハウス栽培にて早期出荷する際の、経営経済効果と利用コストを考察せよ。
()

②「Myしずおか日本一」の農産物を、複合環境制御装置で早期出荷する際、あなたならば次のどの農産物を選択し、どのようなシステムを構築するか、考察せよ。

〈しずおか日本一の農産物群〉温州みかん・グレープフルーツ・わさび・芽キャベツ・温室メロン・タアサイ・しそ
葉しょうが・ルッコラ・生しいたけ・四ツ溝柿

()

③遮光技術をどのように発展させれば、農作業従事者の温熱快適性と作物生産性を両立できるか、高校生らしい自由な方法を考察せよ。

()

年 組 名 前

作問者：NIEアドバイザー 実石克巳（静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考>①＝経営学 経済学に関する問題、②＝システム工学に関する問題、③農業学 物理学 工学 保健学に関する問題